

(様式6)

Yanjinsuren Batbayar 氏から学位申請のため提出された論文の審査要旨

題 目 Reliability and Validity of Spinal Cord Independence Measure of Mongolian Version (mSCIM)
(モンゴル語版Spinal Cord Independence Measureの信頼性及び妥当性の検討)
The Kitakanto Medical Journal 第71巻第2号 : in press, 2021年5月
Yanjinsuren Batbayar, Bolorchimeg Delegdoo, Lkhamkhuu Bat-Erdene,
Lkhagvasuren Byambaragehaa, Masaaki Sakamoto

論文の要旨及び判定理由

モンゴル国の脊髄損傷 (SCI) 患者の日常生活動作の評価には、機能的自立度評価法 (FIM) とバーサル指数が使用されているが、排泄管理と呼吸管理の評価は不十分であり、SCI患者の機能的スケールとして脊髄障害自立度評価法 (SCIM) が推奨されている。本研究では、セルフケア、呼吸と排泄管理、移動の3領域・19項目から構成される最新版のSCIM IIIのモンゴル語版 (mSCIM) を作成し、その信頼性と妥当性の検討を行った。

著作権者の転載許可を得た後、モンゴル語を母国語とする英語に堪能な医師2名がSCIM IIIをモンゴル語に翻訳した。更に、ネイティブ英語翻訳者によって逆翻訳して誤訳を修正した。モンゴル国内4施設に入院した16歳以上で認知機能障害のないSCI患者40名のうち、30名を対象に信頼性と妥当性を検討した。残りの10名のリハビリテーション前後でのmSCIMとFIMの運動項目をMcNemar検定により比較し、反応性を検討した。

2名の評価者間信頼性を示す%一致率およびCohen's Kappa係数は全項目を通じて、それぞれ83-100%と0.70-1.00であった。また、級内相関係数は合計スコアおよび各領域で0.99を越えていた。内的一貫性は、呼吸と排泄の領域はCronbach's alpha係数が0.57, 0.59とやや低かったが、他の領域では0.75を越えていた。mSCIMとFIMとのSpearmanの相関係数はいずれの評価者においても0.86を越えており、妥当性が示された。対象者10名のリハビリテーション前後での機能変化については有意差を認めなかったが、FIMでは変化を認めなかった呼吸と排泄管理領域でmSCIMは変化を検出していた。

これらの結果は他国のバージョン (トルコ語版、タイ語版、イタリア語版、日本語版、スペイン語版) と同等であり、評価者間の高い信頼性と妥当性を示すものである。また、mSCIMはFIMより機能変化への反応性が高いことが示唆された。本研究は、mSCIMによってモンゴル国でのSCI患者の明確な能力評価を可能とし、効果的なリハビリテーションプログラムの作成に寄与するもので、リハビリテーション学分野での重要な研究と認められ、博士 (保健学) の学位に値するものと判定した。

(令和3年2月8日)

審査委員

主査

群馬大学大学院教授

リハビリテーション学講座

三井 真一

印

副査

群馬大学大学院教授

リハビリテーション学講座

久田 剛志

印

副査

群馬大学大学院教授

リハビリテーション学講座

菊地 千一郎

印

参考論文

なし